

「クリエイターの話 ～ 私のイメージの源泉」

スペースデザイン部会員 中曽根 清子

『ジャワ更紗に魅せられて ～チャンチンと私』

短大を卒業し繊維会社でデザインの仕事を始めた頃サラサ模様が流行しておりました。いろいろな図のサラサを目にすることがあり、その中でもインドネシアのサラサ・バティックの線、筆で描く線とは全く異なる線が気になり、それがチャンチンというもので描くことを知りバティック教室に通い始めました。これが染色を始めるきっかけになりました。

細いノズルから出る蠟で描く線は、ニュアンスのある線は描けませんが、その線だけの単純な行為で作品にしようと思いました。

空・雲・海・水・木々の動きなど自然界の見事な形を借り、それを自分なりの美意識に展開して作品にしております。新制作展に出展するきっかけは60年来の友人 桜井玲子氏の存在です。いろいろきびしい指導を受けて出すことにしました。染色の方法として最初はナフトール染料の浸染でしたが、この染料の多数が公害に指定され求める色がむずかしくなり、これを機に反応染料の引き染めに切り換えました。張手に張り、ハケで染めます。色数だけ染めと蠟取りをくり返します。材料は綿サテンの生地です。だんだん体力の低下が目立ってきましたが新制作展への出展で生かされていることを感じます。これからも作品を作ってゆくことが出来ればと思っています。

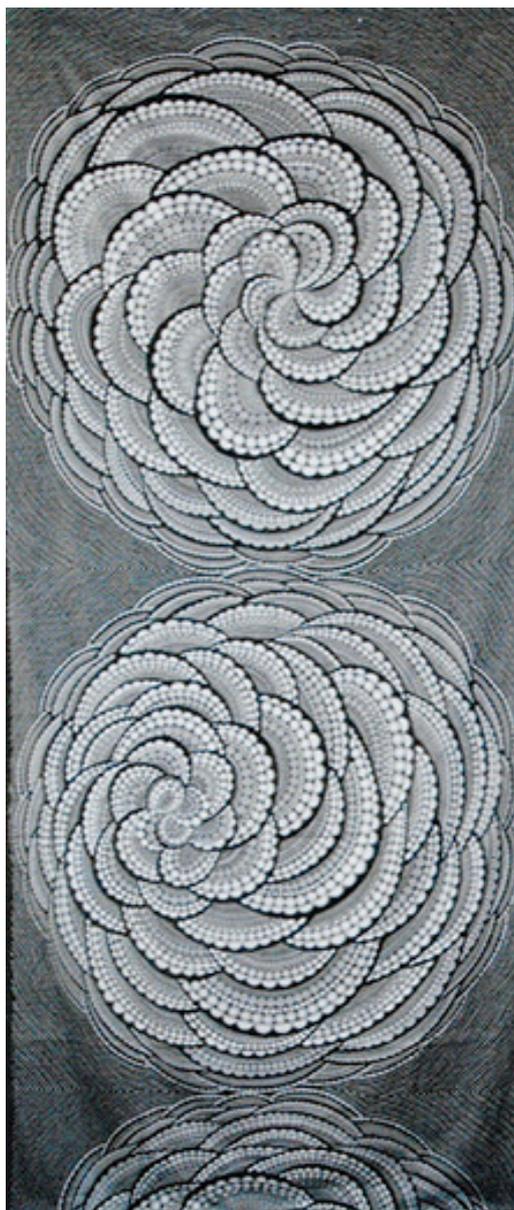
作品 1



題名『水の舞』(2005年)

線の間隔の違いで表現した作品です。ブルーの一色染めです。

作品 2



題名『花ぐるま』(2013年)

線と単純なパターンの繰り返しです。
黒とグレーの2色です。

作品 3



題名『汀』(2023年)

長年染だけにこだわってきたものを部分的にぶるーと黄色の色をさした作品です。

<中曽根 清子 プロフィール>

- 1963 女子美術大学短期大学部造形美術科卒
- 1995 グループ展 松崎画廊 (銀座 ~1998)
- 2008 女子美術大学香川支部展
(高松市立美術館) (隔年 ~2021)
- 2013 個展 灸まん美術館 (香川)
- 2014 新制作展新作家賞
- 2015 新制作展新作家賞
- 2016 新制作協会会員推挙